

喜 怒
哀 楽

野村 逸紀

nCinoは2011年末に米国で創業し、銀行向けに融資業務変革のプラットフォームを提供する会社だ。全世界で1750以上の金融機関に採用頂き、日本法人は2019年末に設立した。

日本法人の立ち上げ以来、当社が日本の金融機関に最高のサービスをお届けするために重要視をしているのがチーム作りだ。良いチームには様々な定義があるが、当社ではコミュニケーションポリシーとして「Openに。謙虚に。正直に」を掲げている。

チームに属する様々な社員がどんな人生観、目標を持ち、それに向けてどんな困難に直面しているか、常に新鮮な状態で共有し合うカルチャーを醸成することを目標としている。

そうした正しいカルチャーさえあれば、結果としてお客様やパートナー様へのパフォーマンスも最大化され、信頼関係の延長線としてより良いビジネス、さらには一緒に働きたいと思える仲間の採用も実現する。

私がカルチャーの重要性に気付いたのは、過去に大きな失敗を経たからだ。

前職でマネージャーになったばかりのころ、数字、成果を上げることがかりに目

カルチャーがすべて

行っていた。しかし、成果がなかなか上がらずその苛立ちからチームへも厳しくあたってしまった。辞めていくメンバーも出る中どうチームを率いていくべきか、もがき苦しむ日々が続いた。

チームがバラバラとなり、その存続さえ危うい状況でようやく周囲やメンバーからの助言、提言もあり、チームづくり、カルチャー融合の大切さに気付く事態が急激に改善したのだ。

そこで、これまでは180度方針を変え、数字を追うのは一旦やめた。「良いチームとは」という定義づくりからスタートし、マネジメント、コミュニケーションスタイルを大きく変革したところ、不思議なほどに良い採用が出来、案件機会も増えるなど成功のサイクルが回り始めるようになったのだ。

目標達成以前に、カルチャー醸成が重要と認識したところから、チームが大きく変わったのだ。そして私の認識と同じく、まさにnCino米国本社を経営陣の方針も、「Culture is everything (カルチャーがすべて)」なのだ。

失敗経験を経てポジティブなサイクル転換を経験したからこそ、こうした組織づくりが成功モデルにつながるものと信じている。

金融機関へ良いサービスを提供するために、これからも良い組織づくりに尽力していきたい。

(のむら・いつき nCino代表取締役社長)